

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1996. 10

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 150

日本野鳥の会 埼玉県支部

私のまちは116種、あなたのまちは？

山部直喜（越谷市）

この数は、1982年4月1日から1996年3月31日までの間、越谷市内において、筆者が観察できた野鳥の種数です。野鳥の種数だけで環境の比較はできませんが、一つの指標にはなるといえます。116という数が多いものなのかどうか、あなたの町の様子も教えてください。

1. 調査概要

まず、環境の多様性が高く豊富な鳥相が予想される地域を選択しました。その地域を中心に、冬鳥・夏鳥調査、ガン・カモ・ハクチョウ類調査、その他の調査を行いました。

冬鳥・夏鳥調査は、以前、当支部でも行っていた分布調査に準拠し、冬鳥は12月1日から1月31日まで、夏鳥は5月上旬から7月上旬までです。

ガン・カモ・ハクチョウ類調査は、当支部が、毎年1月15日、県内一斉に行っている分布調査です。調査地域は、古利根川の寿橋から堂面橋までの約1.5km。

その他の調査とは、散歩や出勤途上の観察、各種団体での観察会です。

いずれの場合も、絶対とか完全とかを求めないで、気ままに少しずつ、自分のできる範囲を心がけました。

2. 調査結果(1)…種数と鳥相

表1（4ページ）で示すように、確認された野鳥は14目34科116種です。

『埼玉県野鳥チェックリスト（1978年4月～1996年1月）』によると、17目55科294種を本県の記録としています。それと比較すると約39%が記録されたこととなります。この116種という数を他市町村と比べたいところ



（アオバズクの繁殖）

です。

季節別の確認種数を見ると、春は67種、夏は48種、秋は67種、冬は69種で、冬に最も多く夏に最も少ないという結果を得ました。さらに春と秋が渡りの時期であること、および冬に個体数の多かったことを考え合わせると、越谷市は越冬地の鳥相を示していると言えます。

3. 調査結果(2)…繁殖種

繁殖状況については、日本野鳥の会が1978年に行った「鳥類繁殖地図調査1978」の基準（P.4表1）に従いました。その基準に従うと、aランク（繁殖確認種）28種、bランク（繁殖の可能性のある種）5種になり、その33種を夏鳥と留鳥に分けると以下ようになります。

〔夏鳥の繁殖種〕…8種

ヨシゴイ、アマサギ、チュウサギ、コチドリ、アオバズク、ツバメ、イワツバメ、オオヨシキリ

〔留鳥の繁殖種〕…25種

4. 調査結果(3)…越冬種

冬に記録された69種の中から観察例が3例以下（「観察」欄のD）を除き、かつ、冬期に越谷市に飛来して越冬する冬鳥を数えると24種となります。これは、夏鳥の繁殖種8種を上回り、このことから越冬地の鳥相を示していると言えます。

〔冬鳥の越冬種〕…24種

アオサギ、コハクチョウ、マガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、クイナ、タゲリ、ハマシギ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、コミミズク、タヒバリ、ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカ、オオジュリン、シメ

表2

ガン・カモ・ハクチョウ類

| No. | 鳥名 | 87年 | 88年 | 89年 | 90年 | 91年 | 92年 | 93年 | 94年 | 95年 | 96年 | 平均 |
|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|
| 1 | マガモ | 4 | | 4 | | 2 | 2 | 4 | 2 | 4 | | 2.2 |
| 2 | カルガモ | 146 | 51 | 120 | 139 | 21 | 56 | 66 | 148 | 120 | 108 | 97.5 |
| 3 | コガモ | 188 | 183 | 95 | 90 | 62 | 189 | 146 | 182 | 144 | 70 | 134.9 |
| 4 | ヨシガモ | 18 | 8 | 4 | | 2 | | | | | | 3.2 |
| 5 | オカヨシガモ | | | 2 | | | | | | | | 0.2 |
| 6 | ヒドリガモ | 140 | 316 | 140 | 249 | 233 | 51 | 181 | 407 | 591 | 607 | 291.5 |
| 7 | アメリカヒドリ | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 0.3 |
| 8 | オナガガモ | 232 | 158 | 101 | 158 | 174 | 298 | 183 | 1,256 | 324 | 217 | 310.3 |
| 9 | ハシビロガモ | | 1 | 2 | 2 | 3 | 9 | 5 | 9 | 8 | 8 | 4.5 |
| 10 | ホシハジロ | | | | | | | | 2 | | | 0.2 |
| | 種数 | 7 | 7 | 9 | 5 | 7 | 6 | 6 | 7 | 6 | 5 | 6.5 |
| | 総個体数 | 729 | 718 | 469 | 638 | 497 | 605 | 585 | 2,006 | 1,191 | 1,010 | 844.8 |

5. 調査結果(4)…ガン・カモ・ハクチョウ類

1987年から1996年までの10年間の「ガン・カモ・ハクチョウ類調査」の結果を表2に示します。

種別の個体数を10年間の平均値で見るとオナガガモが最も多く310.3羽/年(優先率36.7%)、次いでヒドリガモ291.5羽/年(34.5%)、コガモ134.9羽/年(16.0%)、カルガモ97.5羽/年(11.5%)となり、この上位4種で総個体数の98.7%を占し、調査地域では圧倒的に多いことが分かります。

なお、調査地域の中で1990年頃より、冬期に左岸で定期的にパンの耳を給餌している人がいて、そこにはオナガガモやユリカモメが多く集まるようになりました。

総個体数の変動を見ると減少傾向にありましたが、1994年に著しい増加を見せ、その後はやや減少傾向ですが、しかし、1994年以前に比べると多い状況です。

1994年の種別の個体数を見るとオナガガモだけでその年の62.6%を占め、前年度と比べて7倍近い増加です。その原因は明らかではなく、その後は徐々に減っています。しかし、この年を境にして、給餌地が上がって餌を待つオナガガモが増えてきています。

ヒドリガモは全体に増加傾向にあると言えますが、カルガモ、コガモは年変動が比較的大きくその傾向が明確ではありません。ハシ

ビロガモは個体数は少数だが増加傾向にあるといえましょう。ヨシガモは県内では数少ない鳥で、ここ数年姿を消しています。

いずれにしろ、汚れた川にも強いオナガガモやハシビロガモの増加は素直に喜ばません。

6. おわりに

鳥を見ることはとても楽しいものです。記録を残すともっと楽しくなります。

私は、このようなレポートが各市町村ごとにあると、自然を守っていく武器にもなると考えています。もっと狭い地域、短い期間のもので結構です。ぜひ、編集部にお寄せください。

なお、このレポートは越谷市環境部環境保全課1996発行の『NATURE DATE BOOK KOSHIGAYA』に執筆した原稿のダイジェスト版です。



(カワセミもいた)

表1

越谷の野鳥リスト

(観察期間1982年4月1日~1996年3月31日)

| No | 種名 | 春夏秋冬 | 繁殖 | 観察 | No | 種名 | 春夏秋冬 | 繁殖 | 観察 |
|----|------------|------|----|----|---------|---------|------|----|----|
| 1 | カイツブリ | ○○○○ | a | B | 61 | ウミネコ | ○○ | | C |
| 2 | ハジロカイツブリ | ○○ | | C | 62 | アジサシ | ○ | | D |
| 3 | カウ | ○☆○○ | | A | 63 | コアジサシ | ○ | | C |
| 4 | ヨシゴイ | ○ | b | B | 64 | シラコバト | ○○○○ | a | A |
| 5 | ゴイサギ | ○○○○ | a | B | 65 | キジバト | ○○○○ | a | A |
| 6 | ササゴイ | ○ | | D | 66 | カッコウ | ○ | | C |
| 7 | アマサギ | ○ | a | B | 67 | ツツドリ | ○☆○ | | D |
| 8 | ダイサギ | ○○○○ | a | A | 68 | コミミズク | ○ | | C |
| 9 | チュウサギ | ○○ | a | B | 69 | オオコノハズク | ☆○ | | D |
| 10 | コサギ | ○○○○ | a | A | 70 | アオバズク | ○○ | a | C |
| 11 | アオサギ | ○ | | C | 71 | フクロウ | ○▽○ | | D |
| 12 | コハクチョウ | ○○ | | C | 72 | アマツバメ | ○ | | D |
| 13 | オシドリ | ○ | | D | 73 | カワセミ | ○○○ | | C |
| 14 | マガモ | ○ | | B | 74 | コゲラ | ○○○ | b | C |
| 15 | カルガモ | ○○○○ | a | A | 75 | ヒバリ | ○○○○ | a | A |
| 16 | コガモ | ○○○ | | A | 76 | ツバメ | ○○○ | a | A |
| 17 | トモエガモ | ○ | | D | 77 | イワツバメ | ○○ | a | C |
| 18 | ヨシガモ | ○ | | C | 78 | キセキレイ | ○○ | | D |
| 19 | オカヨシガモ | ○ | | C | 79 | ハクセキレイ | ○○○○ | a | A |
| 20 | ヒドリガモ | ○ | | A | 80 | セグロセキレイ | ○○○○ | b | C |
| 21 | アメリカヒドリ | ○ | | C | 81 | ビンズイ | ☆ | | D |
| 22 | オナガガモ | ○○○ | | A | 82 | タヒバリ | ○ | | C |
| 23 | ハシビロガモ | ○○ | | B | 83 | ヒヨドリ | ○○○○ | a | A |
| 24 | ホシハジロ | ○ | | C | 84 | モズ | ○○○○ | a | B |
| 25 | キンクロハジロ | ○ | | C | 85 | ヒレンジャク | ○ | | C |
| 26 | ミコアイサ | ☆ | | D | 86 | ジョウビタキ | ○ | | C |
| 27 | トビ | ○ | | D | 87 | ノビタキ | ○ | | D |
| 28 | オオタカ | ○ | | D | 88 | トラツグミ | ○○ | | D |
| 29 | サシバ | ☆☆ | | D | 89 | アカハラ | ○☆ | | D |
| 30 | ハヤブサ | ▽○ | | D | 90 | シロハラ | ☆○ | | D |
| 31 | チョウゲンボウ | ○○ | | C | 91 | マミチャジナイ | ○ | | D |
| 32 | コジュケイ | ○○○○ | b | C | 92 | ツグミ | ○○○ | | B |
| 33 | キジ | ○○ | b | C | 93 | ウグイス | ○○○ | | B |
| 34 | クイナ | ○ | | C | 94 | オオヨシキリ | ○○ | a | A |
| 35 | ヒクイナ | ○ | | D | 95 | メボソムシクイ | ☆ | | D |
| 36 | バン | ○○○○ | a | B | 96 | セッカ | ○○○ | a | B |
| 37 | オオバン | ○○○ | | C | 97 | キビタキ | ☆ | | D |
| 38 | タマシギ | ○ | a | C | 98 | オオルリ | ▽ | | D |
| 39 | コチドリ | ○○○○ | a | B | 99 | サンコウチョウ | ☆ | | D |
| 40 | イカルチドリ | ○○○○ | | C | 100 | ヤマガラ | ○☆ | | D |
| 41 | シロチドリ | ▽ | | C | 101 | シジュウカラ | ○○○○ | a | B |
| 42 | ムナグロ | ○ | | C | 102 | メジロ | ○○○ | | B |
| 43 | タゲリ | ○ | | C | 103 | ホオジロ | ○○○ | | C |
| 44 | ヒバリシギ | ○ | | D | 104 | ホオアカ | ○ | | D |
| 45 | ハマシギ | ○ | | C | 105 | カシラダカ | ○ | | B |
| 46 | ツルシギ | ○ | | D | 106 | ミヤマホオジロ | ▽ | | D |
| 47 | アオアシシギ | ○○ | | C | 107 | アオジ | ○ | | B |
| 48 | クサシギ | ○ | | C | 108 | オオジュリン | ○ | | C |
| 49 | タカブシギ | ○○ | | C | 109 | カワラヒワ | ○○○○ | a | A |
| 50 | キアシシギ | ○ | | C | 110 | シメ | ○○ | | B |
| 51 | イソシギ | ○○○○ | | B | 111 | スズメ | ○○○○ | a | A |
| 52 | ソリハシシギ | ○ | | D | 112 | ムクドリ | ○○○○ | a | A |
| 53 | チュウジャクシギ | ○ | | C | 113 | カケス | ☆○ | | D |
| 54 | タシギ | ○.○○ | | B | 114 | オナガ | ○○○○ | a | A |
| 55 | オオジシギ | ▽ | | D | 115 | ハシボソガラス | ○○○○ | a | A |
| 56 | セイタカシギ | ▽ | | D | 116 | ハシブトガラス | ○○○○ | a | A |
| 57 | ハイイロヒレアシシギ | ▽ | | D | 野生化した飼鳥 | | | | |
| 58 | アカエリヒレアシシギ | ○ | | D | 1 | ドバト | ○○○○ | a | A |
| 59 | ユリカモメ | ○○○ | | A | 2 | ワカバシイノ | ○○○○ | | C |
| 60 | セグロカモメ | ○○○ | | B | 3 | ベニスズメ | ○ | | D |

注1 春…3, 4, 5月 夏…6, 7, 8月 秋…9, 10, 11月 冬…12, 1, 2月

注2 「春夏秋冬」の生息確認の基準は、山部が直接に生息を確認(○印)、文献による確認(☆印)、識別に充分な資料が揃っていた私信・写真・剥製等による確認(▽印)である。

注3 「繁殖」状況の確認は山部が直接に行い、その基準は日本野鳥の会『鳥類繁殖地調査1978』による。

a ランク…繁殖確認種 b ランク…繁殖の可能性のある種

注4 「観察」は直接的な観察結果、および、経験に基づく判断も含めて便宜上下記のように分けた。

A…毎年もっとも普通で、毎年多くの観察者が容易に観察できるもの。

B…毎年、比較的容易に観察できるもの。

C…観察記録や数が少なかったり、年によって渡来しなかったりしたもの。

D…観察期間中の記録が3例以内のもの。

■リュウキュウヨシゴイの記録

和名 リュウキュウヨシゴイ
 目科 コウノトリ目サギ科
 学名 *Ixobrychus cinnamomeus*
 英名 Cinnamon Bittern

1998年7月6日(土)、浦和市大久保農耕地(通称秋ヶ瀬B地区)でその前に観察されたオオヨシゴイを探していた支部会員細井要氏をはじめとする数名が、ヨシゴイともオオヨシゴイとも異なる個体を発見。その場で即座にリュウキュウヨシゴイと同定するには至らなかったが、その後埼玉県生態系保護協会の峰島敬治氏が写真撮影してリュウキュウヨシゴイと同定、新聞各紙に発表した。

その後連日多くのバードウォッチャーが集まり(遠くは岐阜県などからも)、多数の人たちが観察し、写真・ビデオ撮影した。

終認は、7月26日(金)と思われる。

水田が広がる中に幾つか点在するアシ原の、ある特定のポイントに降りていて、時々その場所から飛び立って他のアシ原に行き、また戻るといった行動を繰り返していた。

降りているとアシにかくれてしまってほとんど見えない。飛び立つ前に少し体を上げて周囲の様子を伺う時と、飛んでいる時に主に観察できた。

この特定のアシ原は、例年通り今年も2~3つがいのヨシゴイが繁殖していた。リュウキュウヨシゴイは、観察当初は、ヨシゴイを追いかけて飛ぶ行動を再三見せたが、日がたつにつれて、そういう行動は見られなくなった。

観察されたのは雄成鳥と思われる1羽で、ヨシゴイ(全長36.5cm)より大きくて(全長40cm)がっしりした感じの体型。胸に太い1本の黒線が見られ、体全体の赤褐色、特に雨覆から風切にかけて一様な赤褐色であり、ヨ

シゴイのように、風切が黒く目立つことがないことが特徴的。オオオオオオと短いリズムで鳴くことも、ヨシゴイの鳴き方と異なる。

20年ほど前に県南荒川沿いで観察されたという情報はあるが、不確実。今回は県内初の確認記録になる(県内鳥類リスト296番目)が、リュウキュウヨシゴイの分布は、インドから南アジア、フィリピン、中国、沖縄などで、国内では南西諸島が北限なので、九州以北の国内初記録でもある。

CROOM HELM(London & Sydney)刊、James Hancock & James Kushlan著の「THE HERONS HANDBOOK」によれば、分布図として、日本を迂回して中国東北部からサハリン中部に至る地域も記載されているので、日本では南西諸島が北限であったが、中国大陸を経由してより北の方まで渡りをしているのかもしれない。

沖縄など南西諸島では、比較的容易に観察できる。

(野鳥記録委員会は、委員長：小林みどり、委員：石井智、海老原美夫、杉本秀樹、4名のメンバーで、写真など確実な裏づけを伴なって県内で確認された野鳥を記録し、県内鳥類リストを作成しています。)



飛んでいる時、雨覆と風切が一様な赤褐色に見える。(撮影・海老原美夫)

地鳴きコーナー

夏休み子ども探鳥会

楠見邦博（浦和市）

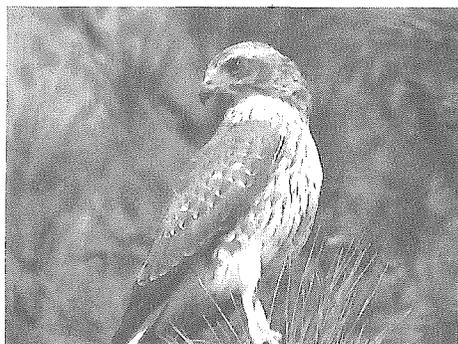
毎月第3日曜日、浦和市三室地区の定例探鳥会を長年後援してくださっている浦和市立郷土博物館から、博物館主催探鳥会の指導を依頼され、協力しました。「連絡帳」欄にも載っていますが、少し詳しくご報告します。

博物館の夏休みの行事の一環として行ったのですが、日にちは8月4日（日）、時期が時期ですから、鳥が出現するかどうか心配で、探鳥会のための資料の表題は「こんな暑い時に鳥たちはいるのだろうか？」その心配を反映したものでした。

企画としては、暑いけれど「まずは外に出て鳥たちを見てみよう」。博物館に戻って、「野鳥紙芝居を見ながら、鳥たちの楽しい話を」。そのあとで、「双眼鏡や望遠鏡の使い方」や「鳥の図鑑の見方」を実際にやってみよう、といろいろ考えました。

しかし、まさに案ずるより生むがやすし、アオサギ、ダイサギ、ゴイサギ、コサギとサギ類の乱舞で、鳥の少なさの心配は吹き飛ばし、室内会も楽しく過ぎました。

担当リーダーは工藤洋三、倉林宗太郎、楠見邦博、楠見文子。観察鳥種、21種。参加者は31名でした。



サシバ（蟹瀬武男・浦和市）

白頭鷲の英名講座・第17回

ツミとアカハラダカ

- ツミ — Japanese Lesser Sparrow Hawk
または Japanese Sparrowhawk
アカハラダカ — Chinese Sparrowhawk
または Gray Frog Hawk
Chinese Goshawk

ツミは、日本の*Accipiter*（ハイタカ属）の中で最も小型（翼開長51～63cm）、最も俊敏で攻撃性も激しく、その意味ではハイタカ属の代表選手といえましょう。近年市街地の公園、学校などのサクラやケヤキの樹上で営巣繁殖する例が増えています。時には、知らずに接近する人に対して、猛然と威嚇攻撃をすることもあります。

Sparrowhawk（雀鷹）の名のとおり、主食はほとんど（90%）が小鳥類で、そのうちスズメが70%を占め、20%がシジュウカラであるといわれています。

世界中に49種の*Accipiter*（ハイタカ属）が確認されており、その内17種にSparrowhawkの

名がつけられています。

Chinese Sparrowhawk（アカハラダカ）は、主として西日本でまれに観察されますが、その英名は3通りもあり、混乱を招きそうですが、ここではいままでの流れから、Sparrowhawkを用いて、その分布に由来する名称で、

Eurasian Sparrowhawk — ハイタカ

Japanese Sparrowhawk — ツミ

Chinese Sparrowhawk — アカハラダカと覚えておきましょう。更に深く追求すれば奥があることを念頭に……

アメリカでは以前アメリカチョウゲンボウ American Kestrelを Sparrowhawkと呼んでいたため、今でも混同のおそれがあります。要注意。



ヨシゴイ ◇7月7日、富士見市水子の柳瀬川左岸のアシ原で2羽（柳瀬川自然観察会）。

ゴイサギ ◇8月17日、東松山市東平の長登呂沼で成鳥2羽、幼鳥4羽。沼脇の雑木林の中で隠れるようにして休んでいた（中村豊己）。

ササゴイ ◇7月6日、坂戸市の高麗川城山橋上流で幼鳥1羽（増尾隆）。

アオサギ ◇7月5日、岩槻市加倉5丁目の自宅南側窓から東から西へ飛ぶ1羽を見る（藤原寛治）。◇8月9日、戸田市道満の彩湖で1羽（陶山和良）。◇8月11日、富士見市水子の柳瀬川左岸の田んぼで1羽。他にアマサギ5羽、ダイサギ2羽、チュウサギ3羽、コサギ4羽（中村治）。

オナガガモ ◇8月11日、志木市の柳瀬川でエクリプスの♂1羽。6月から観察されており、ケガでもしたのか越夏（中村治）。

チョウゲンボウ ◇7月3日午後3時、和光市本町の10～15階建てのマンション10棟からなる住宅団地内に侵入飛来したのを12階北面廊下から目撃。1回目はマンションの間の約60m幅の木立の上を通過。建物の壁面に沿い、上昇気流を利用するかのよう一気に約70～80mを舞い上がり快晴の青空に停飛。2回目は同じ場所でツバメを追う。このとき、親ツバメであろうか、チョウゲンボウの後約2mの距離を鋭い声を発しながら追いかける。ツバメはどうやら逃げおおせた模様（松本義明）。

ヒクイナ ◇6月8日午前9時、大宮市大和田の芝川右岸、東武鉄橋南約50mの所で2

羽。鳥を見ながら犬の散歩をしていると対岸を双眼鏡で熱心に見つめている人たちがいました。同じ方向に双眼鏡を向けて見ると、なんとヒクイナ！ アシの密生した岸辺から時々水辺に出て餌をついばんでいました。川を隔てて10m位の距離ですが、こちらを警戒する様子もなく、目の赤、脚の赤、下尾筒の白黒の縞模様などじっくり観察できました（浅見徹）。

バン ◇8月17日、東松山東平の長登呂沼で成鳥2羽、幼鳥3羽。農業用のため池ですが、今年も子育て中。アシの間から出たり入ったり楽しそうだった（中村豊己）。

アオバズク ◇6月10日午後11時40分、大宮市の氷川神社の参道ですぐ近くとやや遠方の2方向から声。声を頼りに探していると頭上間近をキジバトより大きい鳥が通過。羽音まったくせず。ひょっとしてこれがアオバズク？6月20日午後6時20分、すぐ近くで声。辺りを探すと、参道脇の電柱の天辺におりました。何度かフライキャッチを繰り返した後、本殿の方へ飛び去る。7月22日午後7時、参道沿いの民家のTVアンテナにとまっていた。薄暗い空をバックに胸の縦斑がはっきり見えました。8月12日午後11時15分、まだいました。一声だけですがはっきり聞こえました（浅見徹）。

カワセミ ◇7月6日、坂戸市の高麗川城山橋上流で幼鳥1羽。5月下旬に親鳥が、巣穴に餌を運んでいたが、もう自分でダイビングして小魚を獲っていました。一人前になるのは人間より早い（増尾隆）。◇8月9日、東松山市東平の長登呂沼で2羽（中村豊己）。

トラツグミ ◇7月2日、寄居町赤浜で夜、鳴き声を聞く（保坂達司）。

表紙の写真

ツバメチドリ（ツバメチドリ科）

8月23日（火）の午前7時ごろ、川越市南古谷地内の休耕田で撮影したビデオのプリントです。

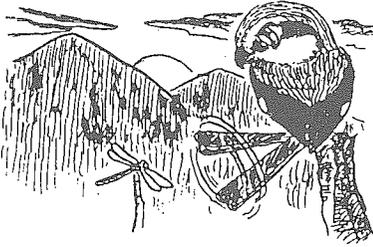
今年茨城県の浮島でもツバメチドリを撮影

しましたが、遠かったので、このようなプリントにはできませんでした。

大喜びしています。

佐藤 進（大宮市）

行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月6日（日）

集合：午前8時30分 北本自然観察公園駐車場、または午前8時15分JR高崎線北本駅改札口。集合後、タクシーで現地へ。

リーダーの指示で分乗してください。

担当：岡安、榎本、内藤、立岩、永野（安）、永野（京）、川那部

見どころ：見上げてみよう大空。大きく輪を描くオオタカ、帰途についたサシバは西方へ。賑やかなカケスも山ごもりから戻ってきた。足下にはツリフネソウが色を添える石戸の秋。オオアカゲラも戻ってこいよ！

お願い：ついでにゴミ拾いをしましょう。軍手のご用意を。

た。思いがけない出逢いに期待をかけてのんびりと歩いてみませんか。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月12日（土）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

交通：JR宇都宮線大宮8:01→栗橋8:30着にて東武日光線乗換え8:53→柳生9:02着

担当：新堂、中島（康）、松井、内田、五十嵐、入山、篠原（五）

見どころ：秋空に舞うチュウヒ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ショウドウツバメ、草原のノビタキなどを求めて歩きます。中央エントランス経由で旧谷中村跡までの往復8Kmのウォーキングです。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：10月13日（日）

集合：午前8時 JR浦和駅西口バスロータリー、集合後、バスで現地へ。

担当：福井（亘）、楠見、伊藤、小林（み）、倉林、笠原、嶋田、羽石

見どころ：すがすがしい秋晴れの下、冬鳥の第一陣はもう来てくれただろうか？とにかく話題の多かった夏の秋ヶ瀬ただだけに、二匹目ならぬ二羽目の何とやらに成ってくれるといいですね。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月6日（日）

集合：午前9時 浦和市くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前

交通：JR浦和駅西口バス1番乗場、大崎園芸植物園行き8:25発に乗車、念仏橋下車

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤、工藤、桜庭、新堂、笠原

見どころ：この探鳥会をスタートさせてから1年がたちました。秋の差間は旅鳥で賑わいをみせます。昨年はツツドリ、ノビタキ、そしてサシバにも会えまし

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月13日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03
発に乗車

担当：小池、田口、和田、中島（章）、石井
（博）、倉崎

見どころ：「大麻生はいつが好き」ときくと、返ってくる答えは「10月」です。ノビタキ、コサメビタキを始めヒタキ3種、ツツドリなどなど秋の渡りのスペシャルメニューをたっぷり用意していますが、予約はできませんので出なかったらゴメンナサイ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月20日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後、バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館前

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、伊藤、笠原、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森

見どころ：見沼たんぼもすっかり秋の装い。たんぼに、斜面林に、代用水に秋の姿があります。昨年は珍しくカワセミが出ました。セキレイも黄、黒、白と三種揃い踏みでした。すがすがしい好季節にぜひお出かけください。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：10月26日（土）～27日（日）

定員に達しましたので締切りました。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月26日（土）午後1時～2時

会場：支部事務局108号室

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月27日（日）

集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前
レストハウス

交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス行田車庫（佐間経由）行き8:55発に乗車、「産業道路」下車 徒歩約15分

担当：内藤、榎本、和田、立岩、石井（博）、島田

見どころ：水不足だけに池の水位が心配です。カモ達は来ているのだろうか…と。でも意外なことの多い「さきたま」です。楽しみにしておきましょう。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月27日（日）

集合：午前9時 JR川越線西川越駅前

交通：JR埼京線大宮8:34発に乗車、川越8:55発に乗り継ぎ

担当：佐久間、長谷部、藤掛、石井（幸）、山本、小野、中村（祐）、池永

見どころ：深み行く秋と共に冬鳥の便りもきかれます。ここ2年タゲリの初認の日はこの探鳥会の人に多いはず。今年もきっと来てくれているでしょう。カワセミもちろん登場します。

長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：11月3日（日）～4日（月・振休）

集合：午前7時30分 JR高崎線本庄駅正面改札口付近。出発は午前8時頃

交通：往復とも27人乗り観光バス利用

費用：20,000円の予定（バス代、1泊3食付き宿泊費、保険料、懇親会費、参加費を含む）万一過不足は当日精算。集合駅までの交通費は各自負担。

定員：22名（申込み者多数の場合は抽選）

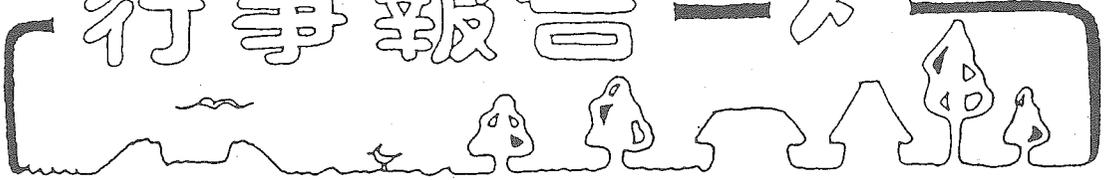
申し込み：往復葉書に住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、町田好一郎

まで。〆切りは10月8日消印まで有効

担当：町田、小池、岡安、兼元

見どころ：紅葉、うまくすれば初冠雪の白馬山麓を探鳥ツアー。アトリ、ミヤマホオジロ、マミチャジナイに会いたいですね。途中で唐花見湿原、鷹狩山、姫川源流にも道草します。鳥のビデオも車中で大公開。それに露天風呂にバスで行く“おまけ”もあります。安全運転の鳥好きドライバーがお伴です。

行事報告



5月18日(土) 栃木県 奥日光

参加: 44人 天気: 晴

オシドリ コガモ ヒドリガモ トビ オオタカ
クマタカ オオジシギ キジバト カッコウ ア
マツバメ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセ
キレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ
モズ カワガラス ミソサザイ コマドリ ノビ
タキ アカハラ ウグイス メボソムシクイ エ
ゾムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ
キビタキ オオルリ コサメビタキ コガラ ヒ
ガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ
ホオジロ ホオアカ アオジ ニュウナイスズメ
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (45種) 中禅寺湖畔では桜が満開だ
ったが、湯ノ湖畔では木々の芽吹きは未だ。スタ
ート直後、上空でクマタカとオオタカがソワリン
グを始め、皆さん大感激。山道に入ると、コマド
リ、オオルリ、メボソムシクイと次々に現われる。
その後も、キビタキ、ノビタキ、ビンズイなど見
られ、大満足の探鳥会だった。(中島康夫)

5月19日(日) 浦和市 三室地区

参加: 55人 天気: 晴

カワウ カルガモ サシバ コジュケイ キジ
バン キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツ
バメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシ
キリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ
カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボ
ソガラス ハシブトガラス (25種) サシバが久し
ぶりの出現。カッコウも鳴きながら飛んでいた。
しかし、芝川の水が多く、シギ・チ類が出なくて
少し寂しい。参加者のほうは、いつものように賑
やかであったのが、なによりうれしい。

(楠見邦博)

5月25日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12人

荒木恒夫、磯部宏、岩上昭代、海老原美夫、角田
真喜子、丹茂子、飛田茂、藤野富代、森力、安原

久子、山本義和、渡辺喜八郎

5月25~26日(土~日) 長野県 戸隠飯綱高原

参加: 29人 天気: 晴

カイツブリ アオサギ カルガモ トビ ノスリ
キジ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツド
リ ホトトギス フクロウ アオゲラ アカゲラ
コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ サン
ショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマ
ドリ コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス
オオヨシキリ キクイタダキ キビタキ コサメ
ビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シ
ジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ
ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ
イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ
ムクドリ カケス ハシブトガラス (51種) 長野
駅に降り立つと抜けるような青空。今年も好天に
恵まれた。バスは一の鳥居を目指してぐんぐん高
度を上げる。一の鳥居では、アカハラやイカルた
ちが迎えてくれたが、天気の良いすぎるためか、イ
マイチ。少々汗ばみながら別荘地を台座法師池ま
で歩いた。宿に行く前に越水ヶ原にミズバショウ
とカタクリを見に行ったが、キビタキの出現に花
はそっちのけとなった。やっぱり花より野鳥か。
森林植物園での早朝探鳥は最高だった。コルリ、
コサメビタキ、ノジコ、サンショウクイ、キビタ
キ、クロジなどが次々と見られた。随神門の上で
フクロウがいるとの情報があり、かわいらしいヒ
ナを見つけることができた。また、例年よりも開
花が遅かったため、ミズバショウも盛りで、花も
野鳥も楽しめた。(菱沼一充)

5月26日(日) 狭山市 入間川

参加: 38人 天気: 晴

ゴイサギ ササゴイ コサギ カルガモ トビ
コジュケイ キジバン イソシギ キジバト
カッコウ ヒメアマツバメ カワセミ アオゲラ
コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキ
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ

モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 今年も入間川の中州でイソシギが繁殖し、かわいいヒナの姿を見ることができた。わずかに数センチのヒナが歩くだけで、みんな夢中。しかし、成鳥になると比較的容易に見ることができ、地味なためあまり人気がない。大人になっても、よく見るときれいだし、かわいいのでずっと応援してほしい。(長谷部謙二)

6月2日(日) 北本市 石戸宿

参加: 29人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ コサギ カルガモ タカSP コジュケイ キジ バン キジバト カッコウ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ メボソムシクイ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 高尾の池でヨシゴイ♀とカワセミ♂をじっくり見ることができた。民家に至る遊歩道では、頭上の木にメボソムシクイが出現し、首が痛くなるほど熱心に観察。桜堤下の開けた所ではカッコウがお腹の縞模様を見せながら飛んでくれた。カルガモ、シジュウカラ、バンの親子の愛くるしい姿には歓声が上がった。(岡安征也)

6月2日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 69人 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ キジ コチドリ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) さわやかな好天の下、久しぶりに差間コースを歩いた。一面緑の中、オオヨシキリの赤い口が映え、セッカ、ホオジロは盛んにさえずりを繰り返していた。工事中だった調整池に水が入り、アオサギがじっとたたずんでいた。これから、シギ・チなど水鳥が楽しめそうだ。(手塚正義)

6月2日(日) 大滝村 三峰神社

参加: 36人 天気: 快晴

トビ キジバト ホトトギス コゲラ キセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ コルリ ヤブサメ

ウグイス キクイタダキ キビタキ オオルリ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ イカル カケス ハシボソガラス (23種) 快晴、風もあり、絶好の探鳥日和のはず……だったが。大吉は大凶に通ずる……という訳ではないと思うが、キャンプ場の周遊道は鳥の声もほとんどせず、三峰神社までのルートでは12種。リーダーはややあせり気味。植物園付近でオオルリ、ゴジュウカラ、キセキレイ、カケスを全員で確認できて、一安心。でも「新緑を満喫できました」と参加者から言われて、鳥を何種見た型から、自然を楽しむ型へ探鳥会の変化を考えてもいいかなと思った次第。(小池一男)

6月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 27人 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ キジ バン イカルチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 雨が朝9時前によく上がって探鳥会はスタート。オオヨシキリのBGMの中、チョウゲンボウ、セッカ、バンの大サービスで超スローペースの進行となる。途中、飛来したカッコウにモズがモビングをしかける一幕を目の当たりにして、平成元年以来久々に大麻生復帰の担当リーダーは、大自然への想いをまたひとつ新たにした。(榎本秀和)

6月9日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 19人 天気: 曇

カイツブリ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ キジ コアジサシ キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス コヨシキリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 緑のジュウタンを敷き詰めたような遊水地のアシ原。アシの先端には、オオヨシキリ、コヨシキリが一杯。カッコウも鳴きながら何羽も飛んでいる。ササゴイの飛ぶ姿も何回か見られた。予告どおりの鳥が全員見られ、楽しい探鳥会も無事終了。(中島康夫)

連絡帳

●公民館のバードウォッチング教室

平成7年11月から平成8年3月まで4回にわたって、蓮田市中央公民館主催のバードウォッチング教室が蓮田市黒浜沼と大宮市深作川で開催され、約60名の参加者に対し、松井昭吾支部長、中島康夫副支部長をはじめ、入山博、桜庭勇、佐藤進、新堂克浩、高松格、玉井正晴、中村榮男、計9名の役員リーダーが指導に当たりました。

今年から来年にかけても開催したいので、同様に指導願いたいとの連絡が、同公民館から届いています。

●博物館の探鳥会

浦和市立郷土博物館主催の夏休み親子探鳥会が今年も開催され、8月4日(日)、三室地区定例探鳥会のコースを中心に歩いた参加者31名に対し、楠見邦博をメインとした役員リーダー達が指導に当たりました。

●バードソン1997

バードソン1997は「里山の自然と野鳥を守る」をテーマに開催すると、概要案内が届きました。

開催日時 1997年5月11日(日)午前5時から午後5時までの12時間

募金目標 2,000万円

募金使途 日本野鳥の会の野鳥保護基金へ一定額を繰り入れた後、地域に根ざした里山環境の保護と永続的活用のために活動しているNGO(野鳥の会の支部とその他の非営利団体)に分配して支援します。

自転車やカメラ、徒歩など、燃料を使わずに移動するチームにはアドバンテージが10ポイント与えられたり、里山グループにエントリーしたチームは、かやぶき屋根や道祖神などを見つければ0.5ポイント加算できたり、いろいろ新たな工夫があります。

参加チーム募集は11月末まで。埼玉県支部の公式チームとして参加したい方、早い者勝ちです。早速支部事務局までご連絡を。

●マツダレンタカーの会員割引

本部の『会員センターだより』によれば、使用目的を問わずに、会員なら3割引(一部1割引)で利用できて、しかも利用金額の1割相当額が、マツダレンタリースから会に寄付されます。

マツダレンタリース東京予約センター(0120-00-5656)に電話して、日本野鳥の会の会員であり、会員割引を受けたいと告げて、利用日時・場所・車種などを予約し、出発当日、現地の店舗で会員証を提示してください。

●10月の事務局 土曜と日曜の予定

- 5日(土) 普及部会議(4時から)
- 12日(土) 編集会議、研究部会(1時から)
- 19日(土) 校正作業(1時から)
- 26日(土) 袋づめの会(1時から)

●会員数は

9月2日現在2,673人です。

活動報告

- 8月3日(土) 普及部会議(リーダー研修会準備など)。
- 8月17日(土) 編集会議(9月号編集作業)、研究部会(調査はがき集計作業など)。
- 8月18日(日) 役員会議(司会:藤掛保司、各部の報告・リーダー研修会・その他)。
- 8月25日(土) 9月号校正(海老原美夫、喜多峻次、工藤洋三)。
- 9月2日(月) 9月号発送(事務局)。

編集後記



ようやく抱卵が
終わりました。
現在は育雛中。
by 極楽トンボ

『しらこぼと』1996年10月号(第150号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)